
再配達削減の取組によるCO₂削減プロジェクト

【ひたちなか市内郵便局×ひたちなか市】

共同プロジェクト発足の経緯

ひたちなか市内郵便局

- インターネットの普及等による宅配物の増加
- 共働きの増加等ライフスタイルの変化



再配達が増加が課題

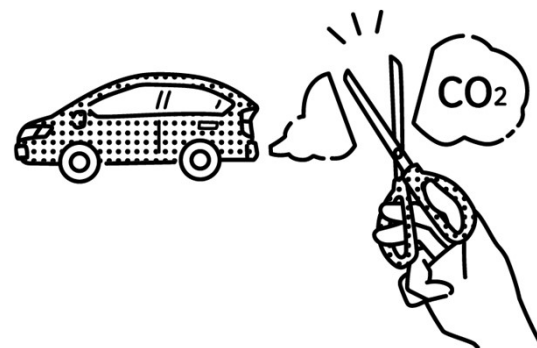


ひたちなか市

【2050年カーボンニュートラル】を表明



脱炭素社会の実現を目指す



再配達削減の取組によるCO₂削減プロジェクト発足

共同プロジェクトの方法

再配達削減方法

市内在住の方に「置き配バッグ※」のモニターを依頼し、置き配バッグが再配達防止にどの程度有効かを検証する。

期待する効果

- 再配達荷物の削減
- 再配達時に係る温室効果ガスの削減



※ 置き配バッグとは・・・ご自宅に不在の時や在宅しているがどうしても手が空かないときに、非対面で宅配物を受け取れる『置き配』サービスを受けるための宅配物を入れるバッグのこと。

モニターの要件

対象者

市内在住の環境シンポジウム2022オンラインを視聴いただいた方

参加数

50世帯

調査期間

令和4年4月1日(金)～令和5年3月31日(金)

調査方法

使用前, 3か月後, 6か月後, 9か月後, 1年後の計5回
モニター参加者にアンケート

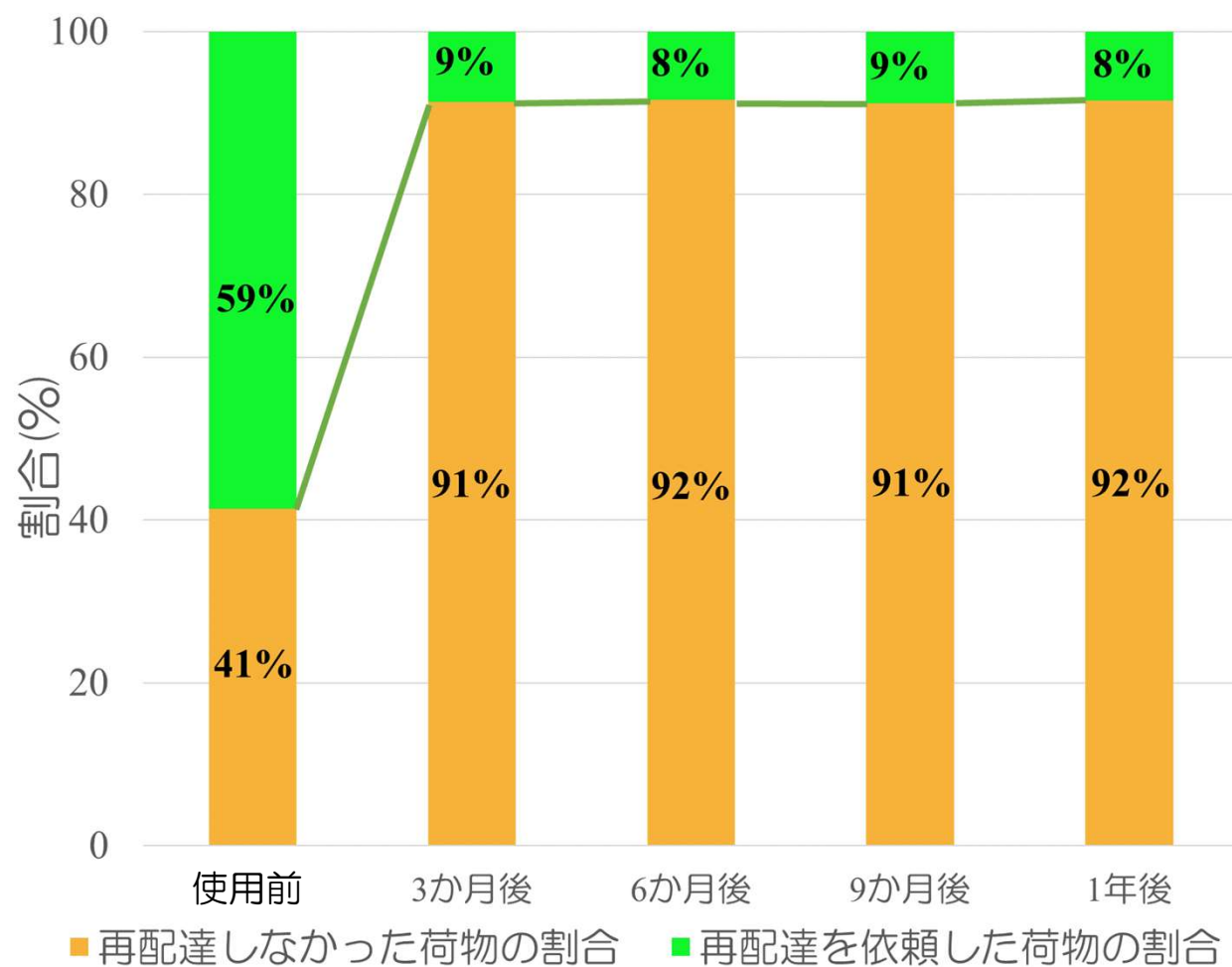


アンケート内容

- 期間内(3か月)の間に受け取った荷物の数は？
→ そのうち、再配達になってしまった荷物の数は？
- 荷物の受け取り方法は？
→ ◎ 置き配バッグを活用して受け取った。
◎ 直接対面で受け取った。
- 再配達となってしまった原因は？
- 日ごろ、環境に配慮した行動を行っているか？
- この事業に対してのご意見



再配達率の推移



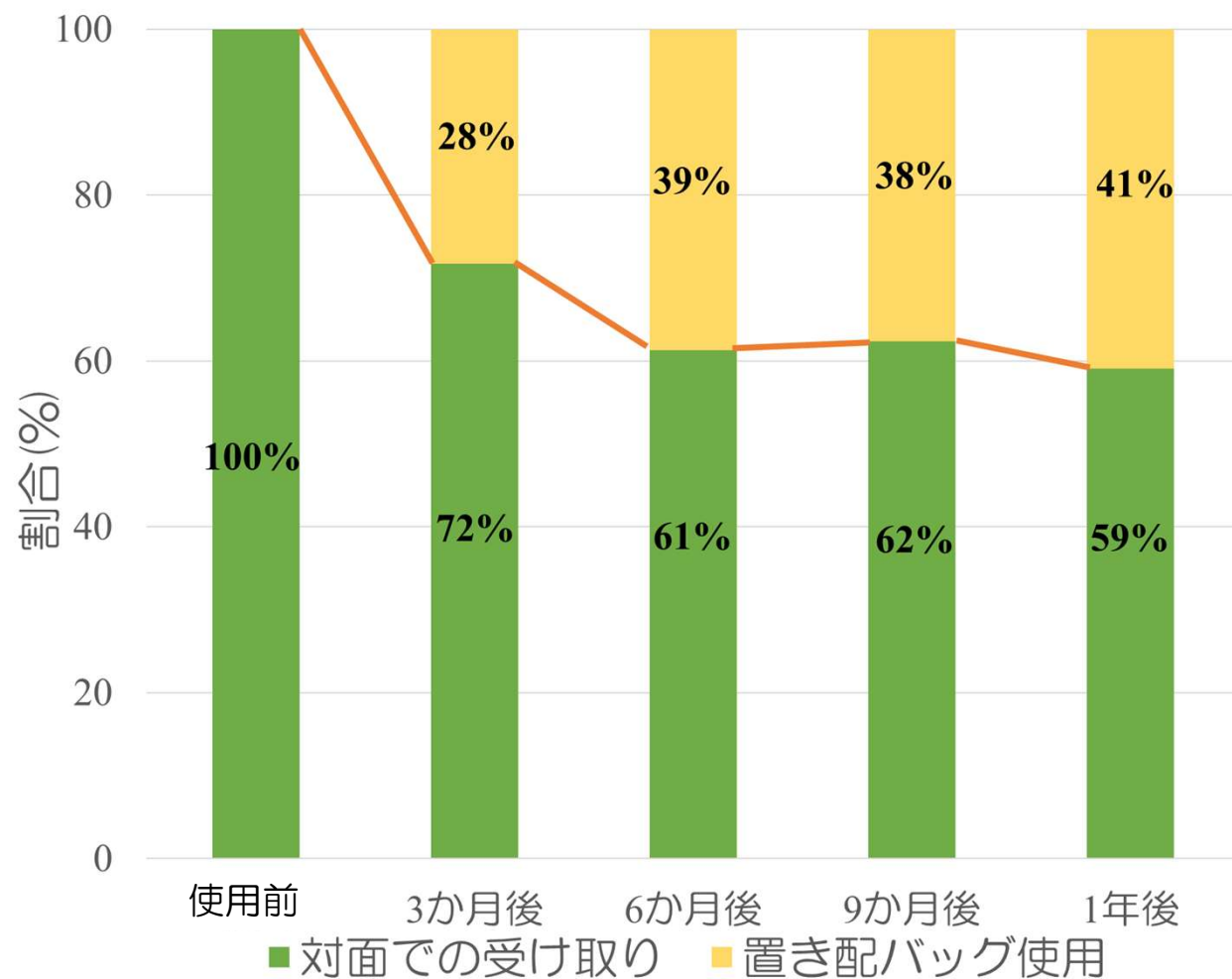
◎ 3か月の間に届いた荷物の総数、再配達を依頼した数※を集計しました。

※同荷物で複数回再配達を依頼したものは複数カウント

使用前 → 1年後
59% → 8%

本プロジェクトに参加したことにより、再配達率が劇的に減少！！

荷物の受け取り方の変化



荷物をどのように受け取ったのか伺いました。

◎ 3か月後・・・置き配バッグを使用しない方の割合が多く、直接対面で受け取る方法で再配達を防止していました。

◎ 1年後・・・徐々に置き配バッグを活用し始めていただいております。

再配達となってしまう原因は・・・

◎ 荷物の種類による起因

- 冷凍品等，常温では置けないものであった。
- 書留等本人の受け取り確認が必要なものであった。

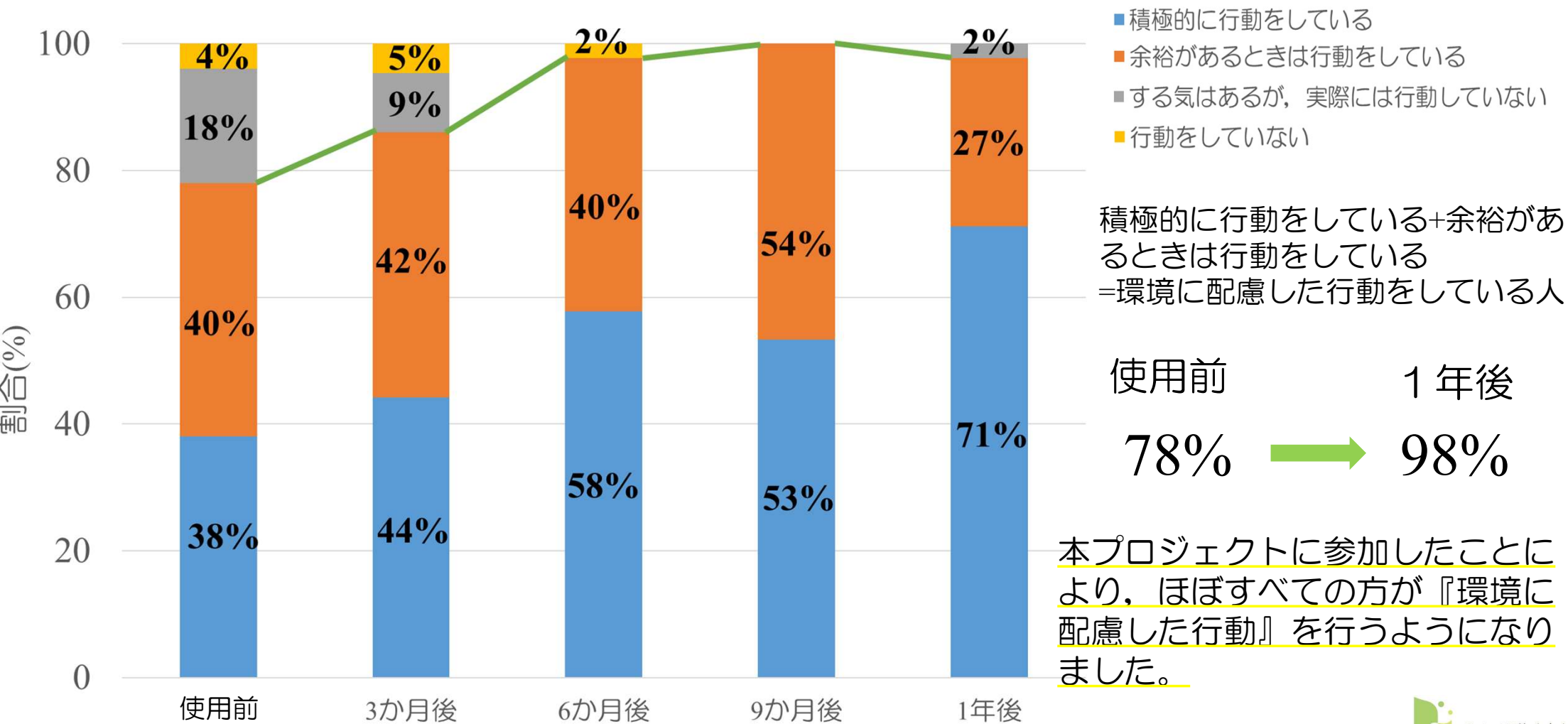
◎ 悪天候下による起因

- 強風で置き配バッグを設置するのが不安であったため，設置しなかった。
- 雨で，荷物が濡れないかが不安であったため，設置しなかった。

◎ 配達員の認識による起因

- 置き配バッグを設置していたが，再配達になってしまった。
- 配達員の人が置き配バッグの使い方がわからないようであった。

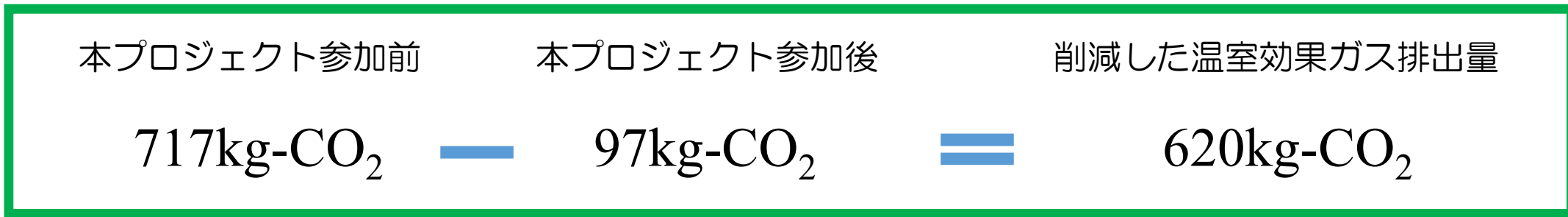
環境に配慮した行動を行っているか@日々の生活



温室効果ガス排出量削減効果試算

$$N^{\text{※1}} \times 0.58\text{km/個}^{\text{※2}} \times R\%^{\text{※3}} \times 1\text{t}^{\text{※4}} \times 0.8\text{kg-CO}_2/\text{t/km}^{\text{※5}}$$

- ※1：荷物の総数
 - ※2：宅配便1個に対する配達車の走行距離
 - ※3：再配達率
 - ※4：積載量の平均値
 - ※5：営業用小型車のCO₂排出原単位
- ※国土交通省「宅配の再配達の削減に向けた受取方法の多様化の促進等に関する検討会報告書」を参考に算出



どのくらい削減できたかという・・・



ひたちなか市の1世帯が1日に排出する温室効果ガス排出量



500mlペットボトルの体積



杉の木が1年間に吸収するCO₂量